

東海大学福岡短期大学教育研究年報 2011 年度版 発刊にあたって

本学は、1966 年（昭和 41 年）に福岡県宗像市に開学した東海大学工学部福岡教養部の後を受け、1990 年（平成 2 年）4 月に開学しました。宗像市をはじめとする地域から懇請のあった「情報化・国際化に対応できる人材の育成」を設立目的とし、現在まで 4,000 人もの卒業生を輩出してきました。しかし、社会の「四年制大学志向」と「専門学校志向」の間にあつて、教養教育を特徴とする本学は、学生数の減少という厳しい現状に対応することを余儀なくされています。今後、高等教育機関としての短期大学は、どのような教育を目指すべきかを、その存続の可否を含めて設立趣意に立ち返り、検討すべき時が迫りつつあるという認識を禁じえません。

もちろん、少子化をはじめとする向かい風を回避すべく策は講じてはきました。2002 年以来、「学びの自由化と個別教育の推進」を掲げ、2005～2006 年度にはこの「学びの自由化と個別教育の推進」を図るプログラムが文部科学省の「現代 GP」に採択され、「学生カルテ」や「リアルタイム授業評価」を活用した教育支援策を拡充してきました。また、2008～2010 年度には、地域と連携して模擬的就業実践を通して学生を社会人に育てる「地域活性型人材育成プログラム」が、新たに「教育 GP」に採択されました。さらに、2009～2011 年度には、本学を含む北部九州の九短大とともに「連携 GP：地域の人材育成に貢献する短期大学の役割と機能の強化のための戦略的短大連携事業」が採択され、「初年次・教養教育の共同開発」事業を主担当として推進しています。また、地域教育活動として、公開講座「学校法人東海大学エクステンションセンター福岡講座」を開催、さらに、市内にある福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学と、宗像市の呼びかけのもとに、「むなかた協働大学」を開講しました。他に、福岡県内の高校との連携授業も実施しました。

日常の教育活動とは別に、2011 年度に最も時間を費やし検討したことは、2012 年 4 月実施をめざしてのカリキュラム改定でした。「生きるを考え、働くを学ぶ」を理念とし、現代文明論を柱とする教養教育と、東アジアの将来を見据えての国際文化学科、新たな時代を迎えた ICT 教育の充実をめざす情報文化学科の融合を図らんとする新カリキュラムが誕生しました。

本学における教育の質向上を目指し試行してきたさまざまな活動を土台に、今後、社会がめざすべき教育とどのように関わり貢献できるかを念頭に、人々から支持され、より魅力ある短期大学に成るべく創意工夫を続ける所存です。

ぜひ、本冊子に対する、ご意見、ご批判を賜れば幸いです。

2013 年 3 月

東海大学福岡短期大学
学長 西野 仁